

全数及び定点(週単位報告)把握対象疾患

2006年37週

- 発生動向の概況
- 定点医療機関からのコメント
- 全数把握対象疾患 患者報告数
- 五類定点把握対象疾患 患者報告数
 - 男女別
 - 推移グラフ
 - 保健所別
 - 保健所別(定点当たり)
 - 年齢階級別
- 病原体・抗体検査情報
 - 週別検出状況
 - 臨床診断名別検出結果
- 感染症豆知識「ジフテリア」

東京都医師会感染症予防検討委員会

事務局:東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話:03-3363-3213(直通)

FAX:03-5332-7365

e-mail: idsc@tokyo-eiken.go.jp

アドレス: idsc.tokyo-eiken.go.jp/



全数及び定点(週単位報告)把握対象疾患

発生動向の概況 《2006年37週》

(全数把握対象疾患)

- ・レプトスピラ症の1症例は、一時敗血症性ショック、腎不全、肝機能障害、意識障害を呈したが、その後軽快した。発症前にネズミがみかけられているごみ置き場で清掃作業を行っており、関連性が疑われている。
- ・レジオネラ症の報告数は、本年1月からの累計が51件となった。前年同時期(15件)と比較して増加している。

区分	疾患	報告 件数	情 報 (検出病原体・血清型・推定感染経路等)	推定感染地
二類	コレラ	1	エルトル小川型	フィリピン
	細菌性赤痢	4	ソンネ菌	国内 2件、 中国 1件、 モロッコ 1件
	パラチフス	1	血液から菌検出	インド
三類	腸管出血性 大腸菌感染症	7	O157 VT2 5件 O157 VT1・VT2 2件 推定感染経路:不明	国内
四類	ライム病	1	症状:筋肉痛 診断方法:血清抗体検出 推定感染経路:ダニの刺咬	ドイツ
	レジオネラ症	2	肺炎型 推定感染経路:水系感染 1件、不明 1件	国内
	レプトスピラ症	2	病原体遺伝子検出 1件 ペア血清での抗体価の有意上昇 1件 推定感染経路:不明	国内
五類	アメーバ赤痢	3	腸管アメーバ症 推定感染経路:経口感染 1件、 異性間性的接触 1件、不明 1件	国内 2件、 不明 1件
	ウイルス性肝炎	1	B型 推定感染経路:同性間性的接触	不明
	劇症型溶血性 レンサ球菌感染症	1	血清群:B群 推定感染経路:創傷感染	国内
	後天性免疫不全 症候群	9	無症候性キャリア 8件、その他 1件 推定感染経路:同性間性的接触 5件、 異性間性的接触 4件	国内 6件、 タイ 1件、 不明 2件
	梅毒	3	早期顕症梅毒: I 期 1件、II 期 2件 推定感染経路:異性間性的接触 2件、 不明 1件	国内
	バンコマイシン耐性 腸球菌感染症	2	バンコマイシンのMIC値16 μ g/ml以上 1件 バンコマイシン耐性遺伝子検出 1件 vanC型 推定感染経路:不明	国内

(推定される感染経路及び感染地は医師の届出によるものである。)

(定点把握対象疾患 ー小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点ー)

- ・手足口病の報告数は、先週に引き続き、この時期としては高い値を示している。

(検査情報)

臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法	
急性咽頭炎	5	咽頭拭い液	アデノウイルス	遺伝子	
急性扁桃炎	4	咽頭拭い液	アデノウイルス		
急性扁桃炎	4	咽頭拭い液	アデノウイルス		
急性上気道炎	7	咽頭拭い液	エンテロウイルス		
顎下腺腫脹	5	咽頭拭い液	ムンプスウイルス、 EBウイルス		
気管支炎	2	咽頭拭い液	マイコプラズマ		
マイコプラズマ感染症	3	咽頭拭い液	マイコプラズマ		
アデノウイルス感染症	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス		
下気道炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス		
口唇ヘルペス	1	咽頭拭い液	単純ヘルペスウイルス		
突発性発しん	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス7型		
不明発しん症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型、 エンテロウイルス		
急性胃腸炎	2	糞便	ノロウイルス		
百日咳疑い	0	咽頭拭い液	百日咳菌		
無菌性髄膜炎	29	髄液	エンテロウイルス		
発熱	2M	髄液	エンテロウイルス		
発熱	1M	髄液	エンテロウイルス		
急性上気道炎	2	咽頭拭い液	アデノウイルス3型		分離*
髄膜炎	1M	咽頭拭い液	エンテロウイルス71		
乳児下痢症	2	糞便	アデノウイルス1型	同定	
コレラ疑い#	70	菌株 (糞便由来)	コレラ菌エルトール小川型 (毒素産生性)		

全数把握対象疾患となる報告症例からの検体

* 遺伝子検査で既に報告済みの検体を含む

腸管出血性大腸菌 菌株検査情報

血清型	産生毒素			合計
	VT1	VT2	VT1・VT2	
O157		3	1	4
O63		1		1

ウイルス性胃腸炎(集団事例)検査情報

検査区分	検査 試料数	陽性数	ノロウイルス		サポ ウイルス	ロタ ウイルス
			G I	G II		
施設内感染疑いまたは食中毒等	34	4	0	4	0	0

定点医療機関からのコメント

八王子保健所

・百日咳(9か月・女児)。三種混合の予防接種は受けていない。

多摩小平保健所

・マイコプラズマ肺炎が発生した(3歳・女児1名、10～14歳・女子1名)。

全数把握対象疾患 患者報告数 2006年37週

分類	疾病名	東京都分(報告週)					全国分(診断週)	
		34週	35週	36週	37週	年累計	37週	年累計*
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	重症急性呼吸器症候群							
	痘そう							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	コレラ				1	7	1	39
	細菌性赤痢	2		2	4	43	8	318
	ジフテリア							
	腸チフス					16	1	53
	パラチフス				1	11	1	18
三類	腸管出血性大腸菌感染症	15	19	8	7	202	107	2739
四類	E型肝炎					3		52
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1				24	4	265
	エキノкокクス症					1	1	16
	黄熱							
	オウム病					3		16
	回帰熱							
	Q熱							1
	狂犬病							
	高病原性鳥インフルエンザ							
	コクシジオイデス症							1
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	炭疽							
	つつが虫病						1	175
	デング熱	5				12		35
	ニバウイルス感染症							
	日本紅斑熱						4	20
	日本脳炎							1
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	ブルセラ症					1		3
	発しんチフス							
ボツリヌス症							1	
マラリア		1	1		12		47	
野兎症								
ライム病			1	1	2		7	
リッサウイルス感染症								
レジオネラ症	1		3	2	51	8	338	
レプトスピラ症	1			2	3	2	7	
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	5	4	4	3	139	9	518
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	1	1	2	1	26	3	177
	急性脳炎	1				5		124
	クリプトスポリジウム症					5	1	14
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1				12	1	116
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	12	1	86
	後天性免疫不全症候群	9	13	9	9	321	15	888
	ジアルジア症	2		1		19		62
	髄膜炎 菌性髄膜炎					1		11
	先天性風しん症候群							
	梅毒	3	3	3	3	91	6	424
	破傷風					6	3	77
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				2	10	2	48

2006/09/22集計

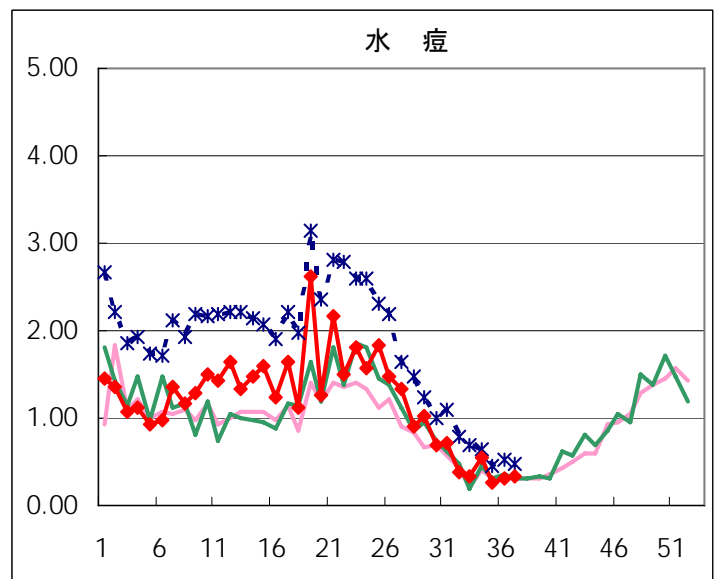
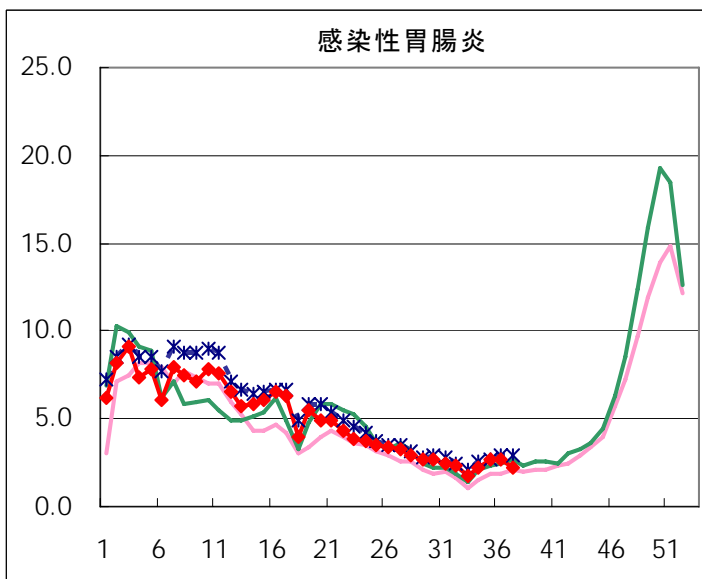
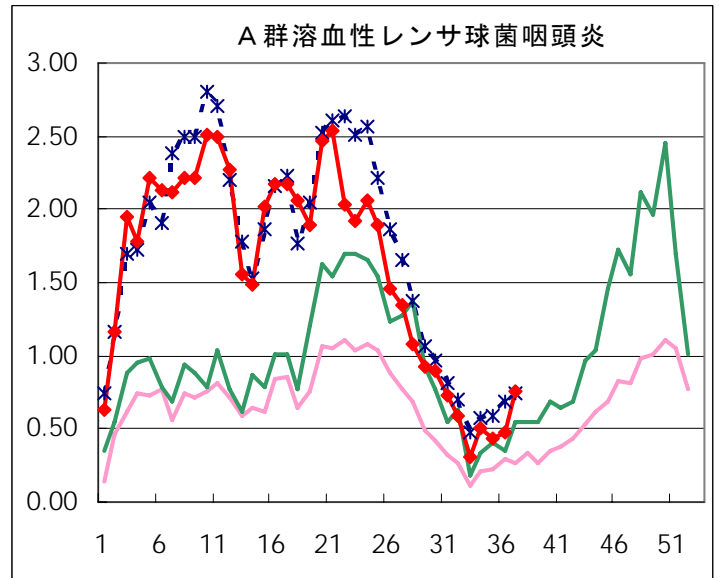
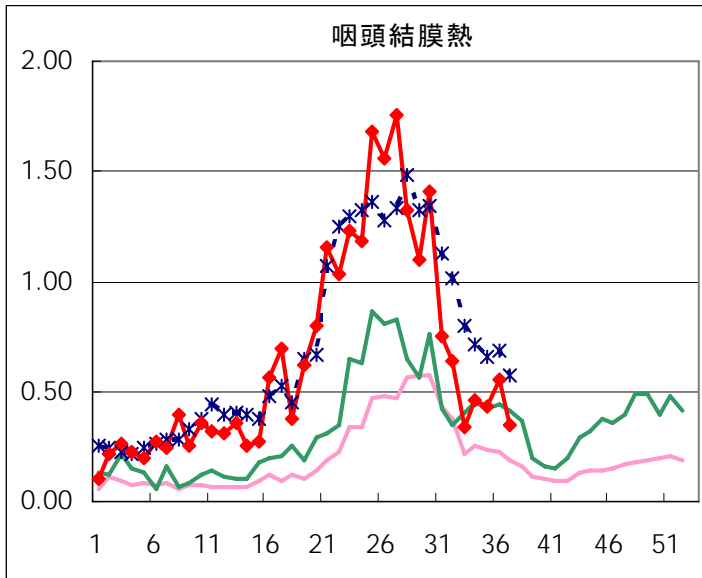
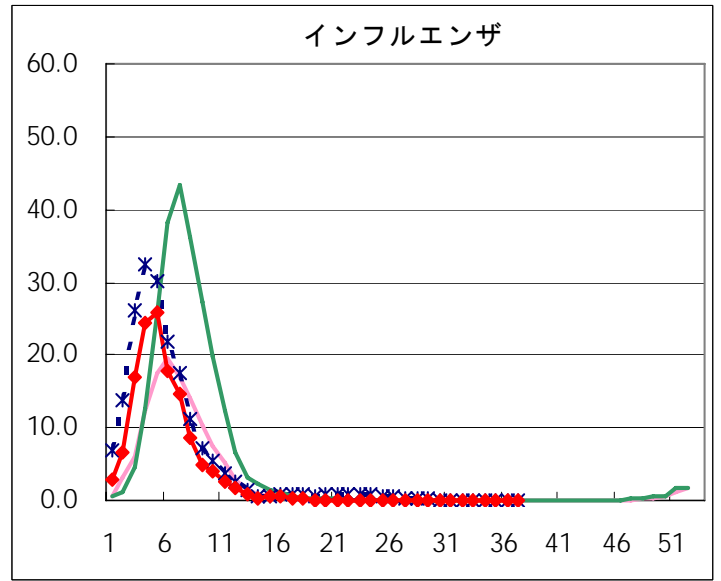
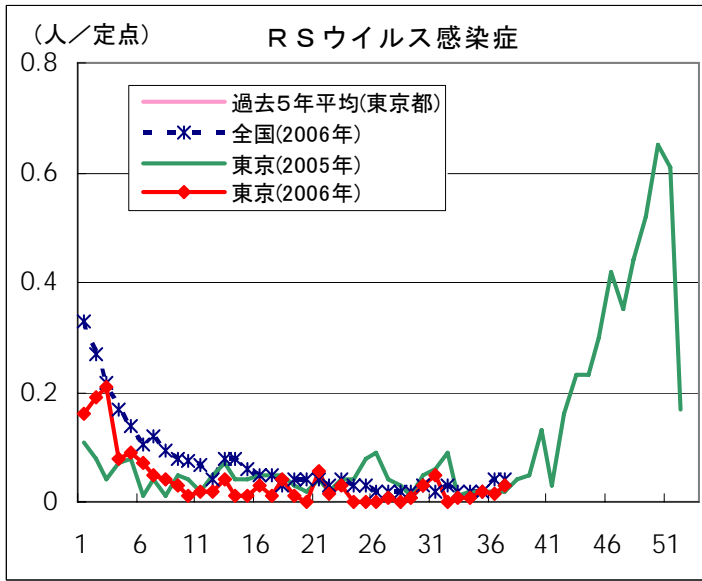
* 36週までの累計値

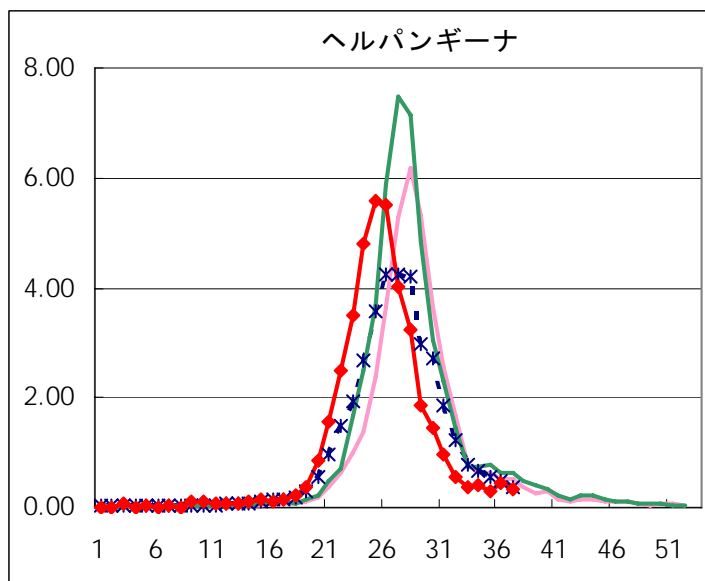
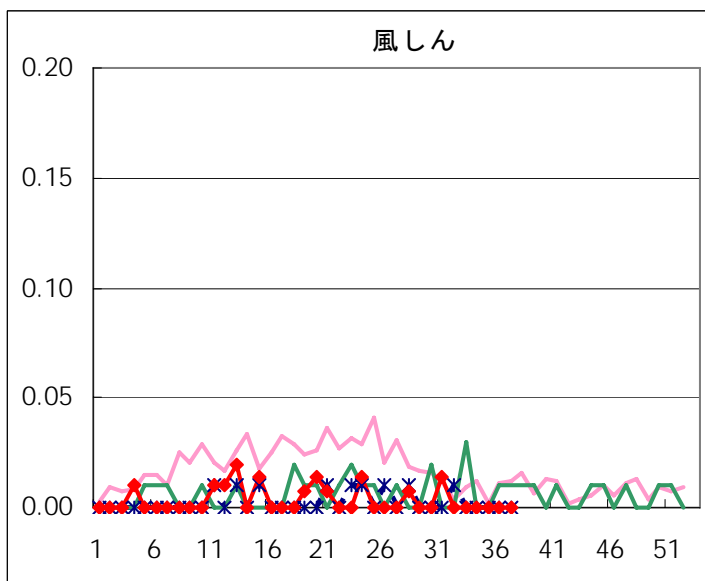
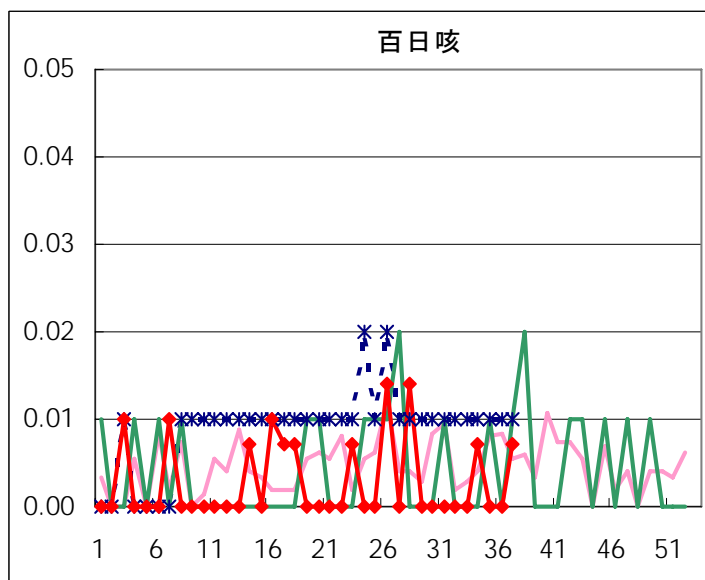
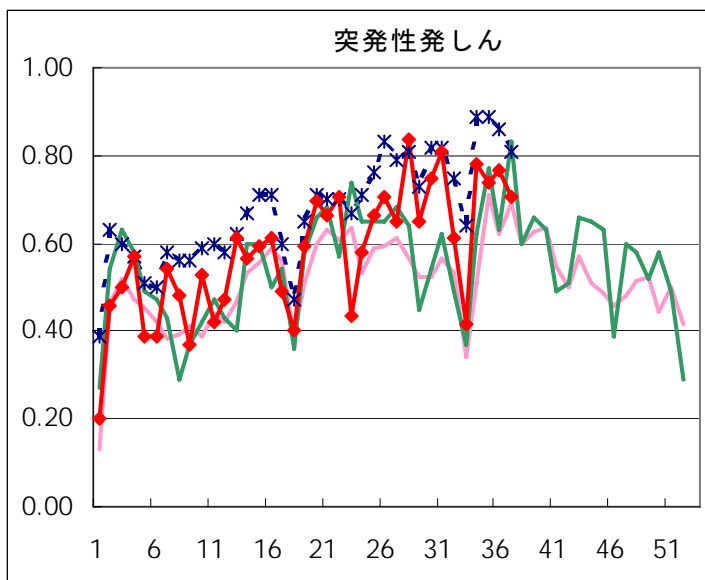
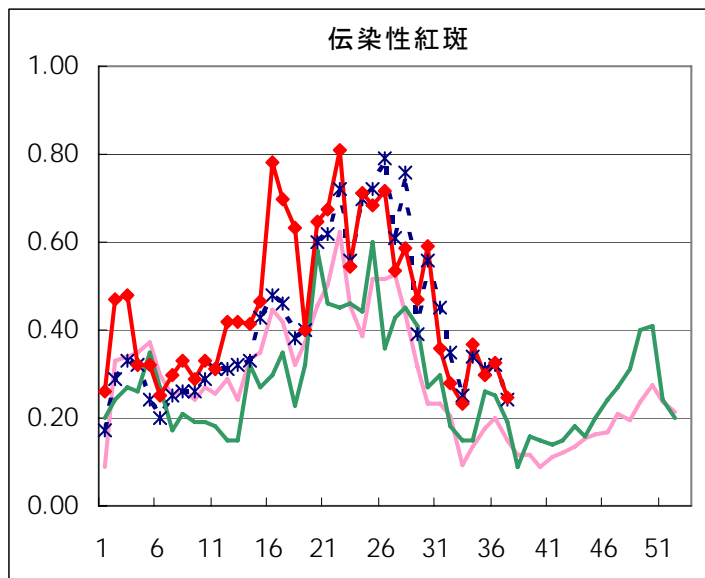
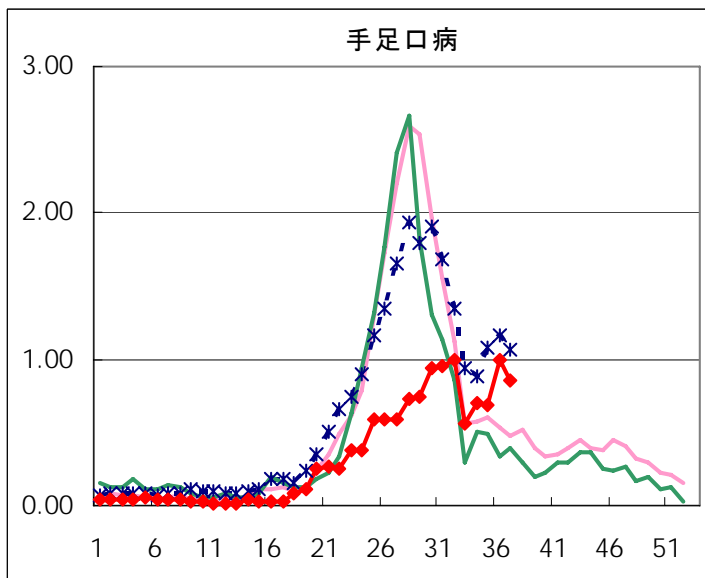
五類定点把握対象疾患 患者報告数【男女別】 2006年37週

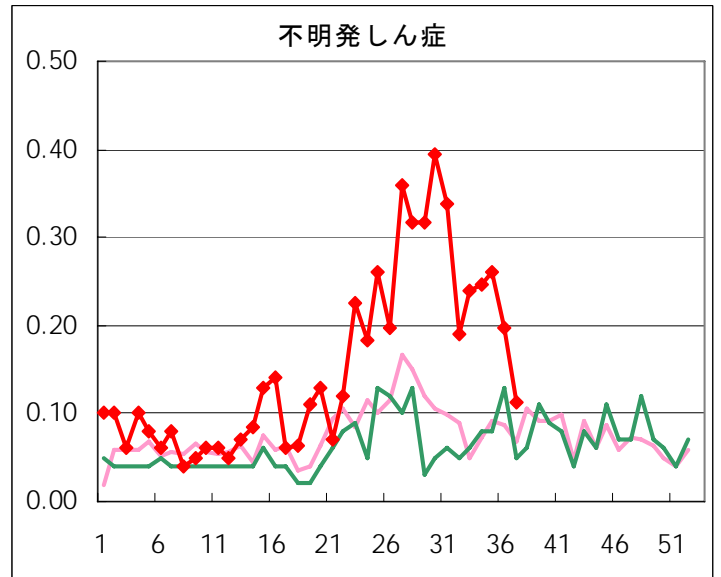
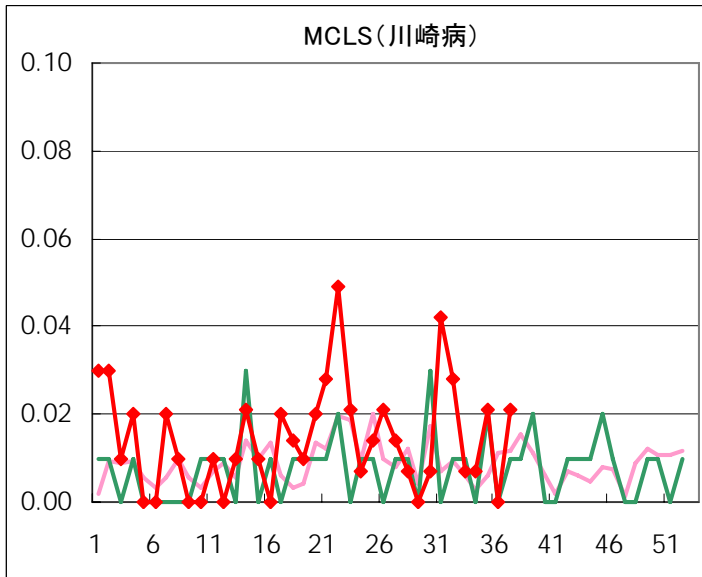
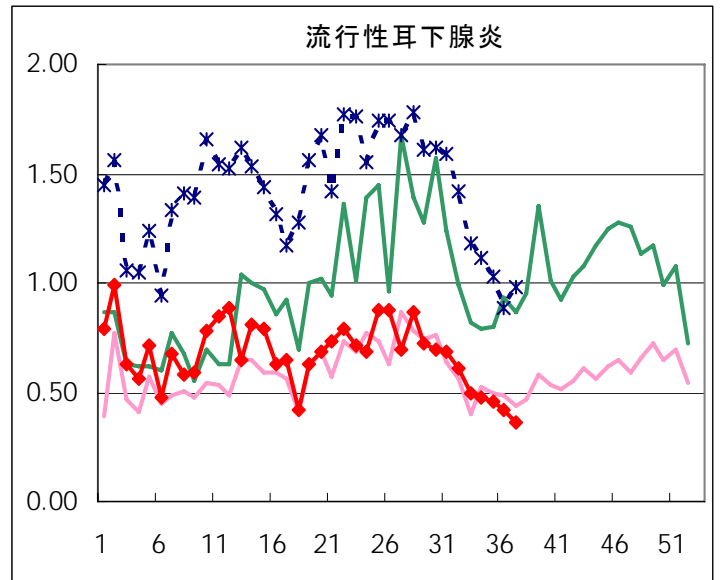
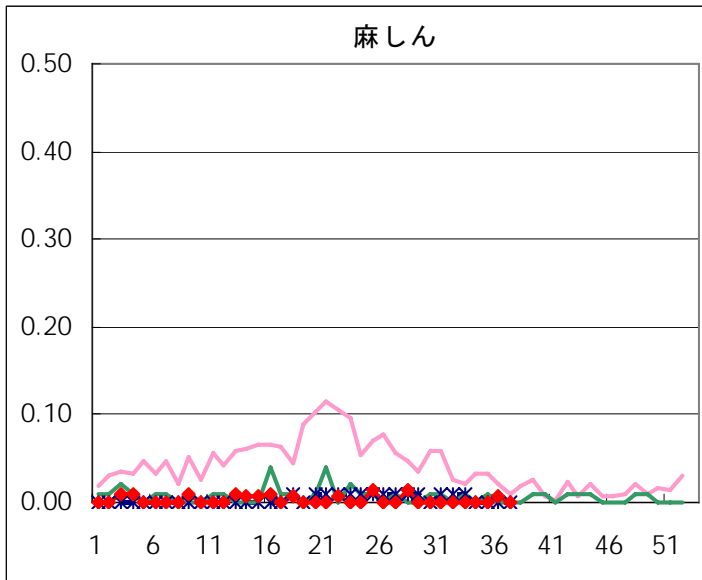
疾病名	性	2006年				4週合計	年累計
		34	35	36	37		
RSウイルス感染症	男	1	2	1	2	6	116
	女		1	1	2	4	85
インフルエンザ	男						12,055
	女						11,870
咽頭結膜熱	男	39	31	46	22	138	1,830
	女	27	31	32	27	117	1,586
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	43	30	29	56	158	4,508
	女	28	32	39	52	151	3,939
感染性胃腸炎	男	183	204	199	180	766	13,768
	女	127	179	177	142	625	12,566
水痘	男	38	21	24	27	110	3,340
	女	40	15	19	19	93	3,021
手足口病	男	40	49	77	64	230	950
	女	59	48	65	57	229	777
伝染性紅斑	男	25	20	19	12	76	1,211
	女	27	22	27	23	99	1,200
突発性発しん	男	53	57	52	46	208	1,589
	女	58	48	57	54	217	1,446
百日咳	男	1				1	8
	女				1	1	6
風しん	男						9
	女						9
ヘルパンギーナ	男	29	25	36	15	105	2,946
	女	31	15	27	30	103	2,737
麻しん(成人麻しんを除く)	男						11
	女			1		1	4
流行性耳下腺炎	男	41	44	36	31	152	1,863
	女	26	21	23	21	91	1,689
不明発しん症	男	19	20	12	11	62	412
	女	16	17	16	5	54	389
MCLS	男	1	2		1	4	40
	女		1		2	3	37
急性出血性結膜炎	男						6
	女						2
流行性角結膜炎	男	7	7	6	7	27	215
	女	4	4	2	7	17	162
細菌性髄膜炎	男						3
	女		1			1	4
無菌性髄膜炎	男	1	2	1	2	6	21
	女						5
マイコプラズマ肺炎	男			2	6	8	49
	女	3	4	2	3	12	41
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	男			1	1	2	3
	女			1		1	1
成人麻しん	男						
	女						

五類定点把握対象疾患 患者報告数【推移グラフ】 2006年37週現在

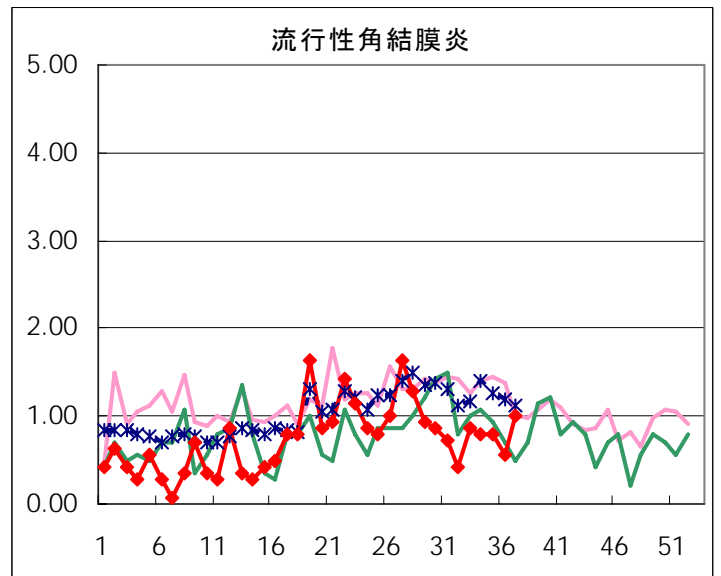
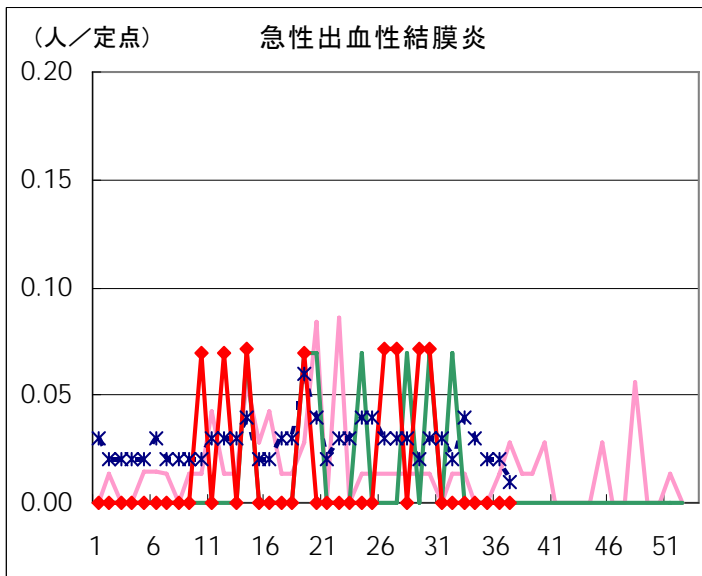
◆ 小児科・インフルエンザ定点



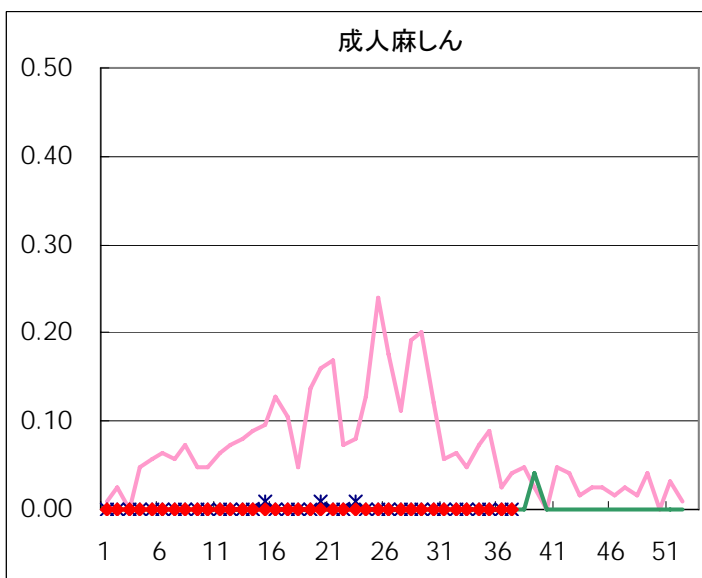
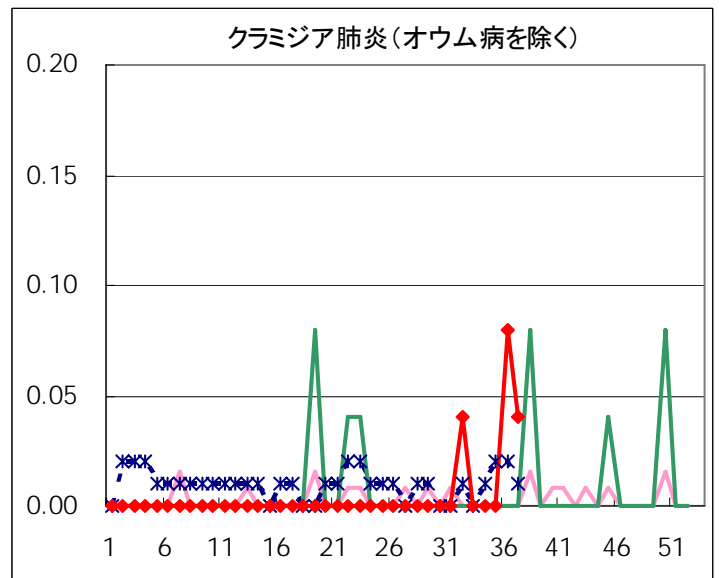
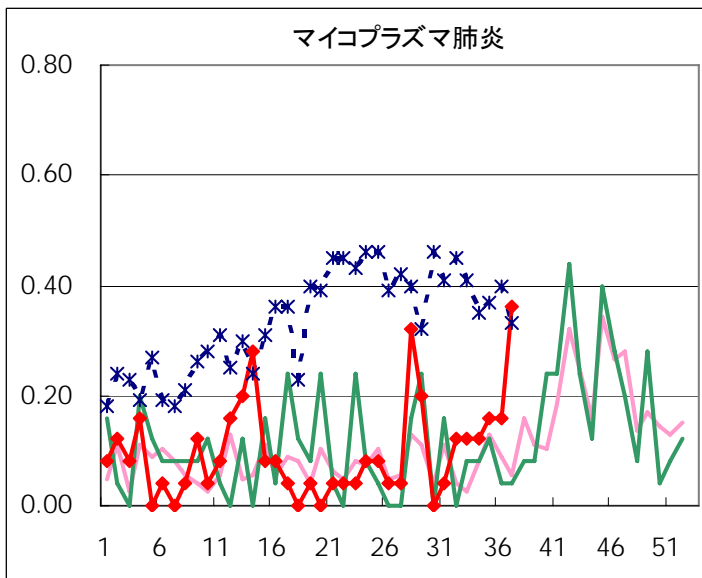
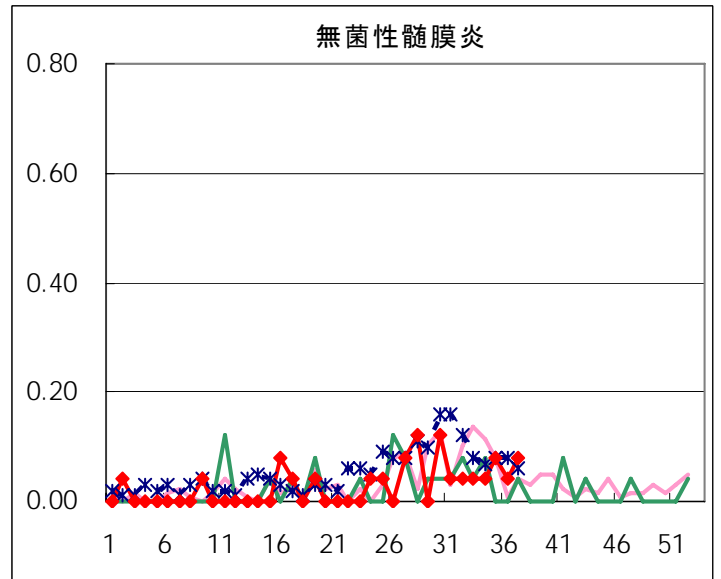
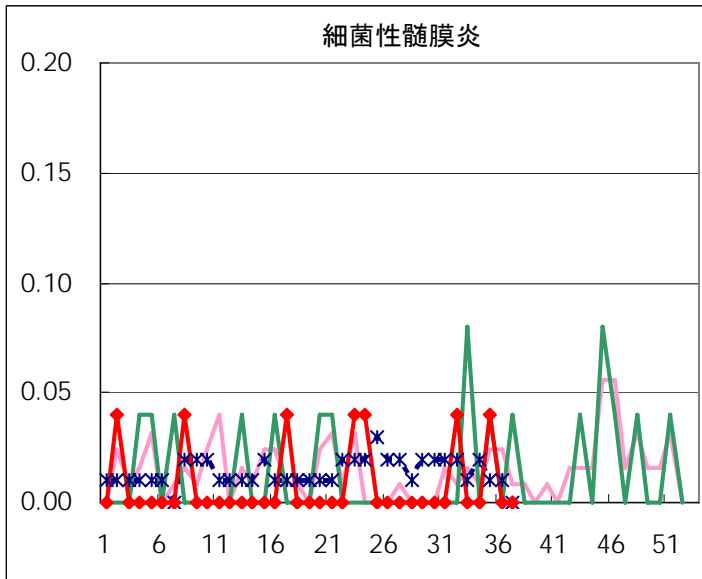




◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



疾患別の定点医療機関数(週単位報告分)		
定点種別	疾患	医療機関数
インフルエンザ	インフルエンザ	178
眼科	急性出血性結膜炎	14
	流行性角結膜炎	
基幹	急性脳炎	25
	細菌性髄膜炎	
	無菌性髄膜炎	
	マイコプラズマ肺炎	
	クラミジア肺炎	
	成人麻疹	
小児科	上記を除く疾病	142

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別】 2006年37週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田			1	1		5				
中央区				1	1	2	4	1	4	
みなと	1		2	5	9		2	1	2	
新宿区				2	22	1	1			
文京			1		6		13		4	
台東			2	1	26		2	1	7	
墨田区			1	1	5		6		1	
江東区				3	23		3		4	
品川区			1	6	24	1	2	4	2	
目黒区					5	2		4	4	
大田区			7	11	26	8	9	2	13	
世田谷			3	3	15	3	6	1	2	
渋谷区			3	1	7	1	2	4	1	
中野区				4	10		1	1	4	
杉並			4	20	14	1		3	5	
池袋					1	1	1		3	
北区				1	10	4	9	1	4	
荒川区			2	2	8		11		5	
板橋区				1	12				2	
練馬区			2	2	2		3			
足立					11	2	6	1		
葛飾区			1	1	3	4	2	1	6	
江戸川			3		11			1	2	
西多摩			4	4	3	1	7	1	4	
八王子			2	9	6	1	2		2	1
南多摩			1	2	6		1		2	
町田				2	7	1	2	1	2	
多摩立川			1	2	10	3	4			
多摩府中			2	4	11	2	2	5	11	
多摩小平	3		6	12	28	3	12	2	4	
島しょ				7			8			

東京都合計	4	-	49	108	322	46	121	35	100	1
定点当り報告数	0.03	-	0.35	0.76	2.27	0.32	0.85	0.25	0.70	0.01

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別】2006年37週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS	合計
千代田				4					11
中央区				3					16
みなと		1		1		3			27
新宿区		1				4			31
文京						2			26
台東		1		1					41
墨田区				1			1		16
江東区						1	1		35
品川区				1			1		42
目黒区									15
大田区		3		2			1		82
世田谷		3		7			1		44
渋谷区									19
中野区		1		1			1		23
杉並				1					48
池袋				1					7
北区		6		3					38
荒川区								1	29
板橋区				3			1		19
練馬区		2		1					12
足立		1							21
葛飾区		1		2			1		22
江戸川		2		1					20
西多摩				3			1	1	29
八王子		1		1		1	5		31
南多摩		2		1					15
町田		15		6		2	1		39
多摩立川		1		3					24
多摩府中		1		4		1	1	1	45
多摩小平		3		1					74
島しょ									15

東京都合計	-	45	-	52	-	14	16	3	916
定点当り報告数	-	0.32	-	0.37	-	1.00	0.11	0.02	

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別・定点当たり】 2006年37週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田			0.25	0.25		1.25				
中央区				0.33	0.33	0.67	1.33	0.33	1.33	
みなと	0.17		0.33	0.83	1.50		0.33	0.17	0.33	
新宿区				0.33	3.67	0.17	0.17			
文京			0.33		2.00		4.33		1.33	
台東			0.67	0.33	8.67		0.67	0.33	2.33	
墨田区			0.33	0.33	1.67		2.00		0.33	
江東区				1.00	7.67		1.00		1.33	
品川区			0.17	1.00	4.00	0.17	0.33	0.67	0.33	
目黒区					1.67	0.67		1.33	1.33	
大田区			0.78	1.22	2.89	0.89	1.00	0.22	1.44	
世田谷			0.38	0.38	1.88	0.38	0.75	0.13	0.25	
渋谷区			0.75	0.25	1.75	0.25	0.50	1.00	0.25	
中野区				0.67	1.67		0.17	0.17	0.67	
杉並			0.67	3.33	2.33	0.17		0.50	0.83	
池袋					0.20	0.20	0.20		0.60	
北区				0.25	2.50	1.00	2.25	0.25	1.00	
荒川区			1.00	1.00	4.00		5.50		2.50	
板橋区				0.17	2.00				0.33	
練馬区			0.40	0.40	0.40		0.60			
足立					2.75	0.50	1.50	0.25		
葛飾区			0.25	0.25	0.75	1.00	0.50	0.25	1.50	
江戸川			0.75		2.75			0.25	0.50	
西多摩			0.80	0.80	0.60	0.20	1.40	0.20	0.80	
八王子			1.00	4.50	3.00	0.50	1.00		1.00	0.50
南多摩			0.33	0.67	2.00		0.33		0.67	
町田				1.00	3.50	0.50	1.00	0.50	1.00	
多摩立川			0.17	0.33	1.67	0.50	0.67			
多摩府中			0.20	0.40	1.10	0.20	0.20	0.50	1.10	
多摩小平	0.50		1.00	2.00	4.67	0.50	2.00	0.33	0.67	
島しょ				7.00			8.00			

東京都合計	4	-	49	108	322	46	121	35	100	1
定点当り報告数	0.03	-	0.35	0.76	2.27	0.32	0.85	0.25	0.70	0.01

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別・定点当たり】 2006年37週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS
千代田				1.00				
中央区				1.00				
みなと		0.17		0.17		3.00		
新宿区		0.17				2.00		
文京						2.00		
台東		0.33		0.33				
墨田区				0.33			0.33	
江東区						1.00	0.33	
品川区				0.17			0.17	
目黒区								
大田区		0.33		0.22			0.11	
世田谷		0.38		0.88			0.13	
渋谷区								
中野区		0.17		0.17			0.17	
杉並				0.17				
池袋				0.20				
北区		1.50		0.75				
荒川区								0.50
板橋区				0.50			0.17	
練馬区		0.40		0.20				
足立		0.25						
葛飾区		0.25		0.50			0.25	
江戸川		0.50		0.25				
西多摩				0.60			0.20	0.20
八王子		0.50		0.50		1.00	2.50	
南多摩		0.67		0.33				
町田		7.50		3.00		2.00	0.50	
多摩立川		0.17		0.50				
多摩府中		0.10		0.40		1.00	0.10	0.10
多摩小平		0.50		0.17				
島しょ								

東京都合計	-	45	-	52	-	14	16	3
定点当り報告数	-	0.32	-	0.37	-	1.00	0.11	0.02

五類定点把握対象疾患 患者報告数【年齢階級別】 2006年37週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん
～5か月	1				2	1			6
～11か月	2		1	1	32	1	4	1	53
1歳			5	4	39	9	39	3	36
2歳			5	4	28	13	26	4	4
3歳			4	18	26	8	11	3	
4歳			6	17	23	7	18	9	
5歳			4	16	22	2	9	5	
6歳			6	8	15	3	4	3	
7歳			2	5	13	1	3	3	1
8歳			4	10	14		2	1	
9歳				2	11		1		
10～14歳			7	9	29	1	2	2	
15～19歳			1		11				
20～29歳	1		4	14	57		2	1	
30～39歳									
40～49歳									
50～59歳									
60～69歳									
70～79歳									
80歳以上									
合計	4	-	49	108	322	46	121	35	100
先週比	2	0	-29	40	-54	3	-21	-11	-9

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	百日咳	風しん	ヘルパン ギーナ	麻しん (成人麻しん を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
～5か月								1	
～11か月	1		4					1	1
1歳			6		2		1	7	1
2歳			9		3			3	1
3歳			9		5				
4歳			7		13				
5歳			4		6		1	1	
6歳			1		6			2	
7歳			1		7				
8歳			1		2				
9歳			2		3			1	
10～14歳					4		1		
15～19歳							1		
20～29歳			1		1		5		
30～39歳							3		
40～49歳							2		
50～59歳									
60～69歳									
70～79歳									
80歳以上									
合計	1	-	45	-	52	-	14	16	3
先週比	1	0	-18	-1	-7	0	6	-12	3

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

病原体・抗体検査情報

週別検出状況 2006年30週～37週

検出病原体・抗体		検体採取週								合計
		2006年								
		30	31	32	33	34	35	36	37	
ウイルス	アデノ	2	6	6	3	3	2	5	6	33
	ライノ	2						1		3
	ポリオ				1					1
	コクサッキーA群				7					7
	コクサッキーB群				1	1	2	1		5
	エコー	3	2	4	5	7	6	2		29
	エンテロ71								1	1
	その他のエンテロ	22	14	10	7	4	11	7	6	81
	単純ヘルペス		1	1					1	3
	水痘・帯状疱疹	1	1							2
	ヘルペス6/7	2	6	6	5	8	2	3	2	34
	EB	1	3	1	1	1	1	1	1	10
	サイトメガロ	1	2		4					7
	ムンプス							1	1	2
	麻疹									
	風疹									
	パルボB19			2						2
	RS					1				1
	ノロ			1	1		10	23	5	40
	ロタ		1	1		2	1	2		7
インフルエンザAソ連型					2				2	
インフルエンザA香港型		1							1	
インフルエンザB型										
デング	1	1							2	
その他のウイルス	2					2			4	
細菌	カンピロバクター									
	サルモネラ									
	腸管出血性大腸菌	18	24	8	13	6	18	13	5	105
	その他の腸管系病原菌		1		1		1	3		6
	溶血性レンサ球菌								6	6
	MRSA									
	MSSA									
	その他の細菌		1	1						2
その他の病原体		3			1	2	3	1	2	12

臨床診断名別検出結果 2006年30週～37週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	合計
搬入検体数	3	50	24	156	53			4	2	3	1	59	5	2		4	255	
アデノ		15	2	2				4	1			2					7	33
ライノ		1										1				1		3
ポリオ				1														1
コクサッキーA群			1					4	1		1							7
コクサッキーB群		2			2												1	5
エコー		1			8							9				1	10	29
エンテロ71					1													1
その他のエンテロ		8	2	2	23			2	3		11					2	28	81
単純ヘルペス												1					2	3
水痘・帯状疱疹しん												1	1					2
ヘルペス6/7		1	1									23					9	34
EB		1										4	1				4	10
サイトメガロ		1		2								2					2	7
ムンプス													1				1	2
麻疹																		
風しん																		
パルボB19											1	1						2
RS			1															1
ノロ				40														40
ロタ				7														7
インフルエンザAソ連型	2																	2
インフルエンザA香港型	1																	1
インフルエンザB型																		
カンピロバクター																		
サルモネラ																		
腸管出血性大腸菌																	105	105
その他の腸管系病原菌				2													4	6
溶血性レンサ球菌																	6	6
その他の病原体		3	9														8	20
備考	この表の「その他の病原体」は「週別検出状況」の表にある「デング」「その他のウイルス」「MRSA」「MSSA」「その他の細菌」と「その他の病原体」の合計である。																	

<感染症豆知識>

ジフテリア

ジフテリアという言葉は、ギリシャ語のなめし革“diphtheria”という語に由来し、紀元前6世紀頃に流行した記録が残っている。患者や無症候の保菌者の咳などから飛沫を介して感染し、通常1～10日間の潜伏期間の後に発症する。感染後、侵される部位により咽頭・喉頭、鼻、皮膚ジフテリアなどの病型に分類される。咽頭、喉頭、鼻腔などに感染増殖した菌は灰白色がかかった偽膜を形成し毒素を産生する。日本におけるジフテリア患者の届け出数は、1945年には約8万6千人であったがその後急激に減少し、1999年に2名、2000年に1名の報告以来患者発生はない。東京都内では1981年に患者から菌が分離されて以来発生報告はない。これは我が国の小児のジフテリア抗毒素保有率がきわめて高く維持されているためである。しかし旧ソビエト連邦では、1990～95年の間に12万5千人のジフテリア患者と4千人以上の死者が確認されている。また熱帯地域では皮膚ジフテリア患者が多数報告されている。咽頭ジフテリアに比較して毒素型の症状を現すことは少ないが、接触者に容易に感染し咽頭ジフテリアの原因となりうる。このように海外では現在もなお患者発生報告があり、日本への持ち込みが危惧されている。2001年には日本で初めて、人獣共通感染症の起因菌でジフテリア毒素を産生するコリネバクテリウム・ウルセランスによるジフテリア様患者の発生が報告された。現在本菌感染症は二類感染症として扱わないが、厚生労働省は診断した医師に対し、患者の同意を得て保健所を通じて情報提供するよう呼びかけている。

(文責:遠藤美代子)